

5. はるかぜ

放課後支援って何？（特別支援学校の放課後の現状）

はるかぜが平成22年に開所して早や8年。この4月で9年目を迎えました。

何もなかった旧山梨幼稚園の2部屋、ガランとした中に畳3畳と会議用の低いテーブルが一つ。おもちゃも頂いたものがほとんどで段ボール箱に1箱。スタッフも未経験者が多く文字通り「ゼロ」の状態からの出発でした。

保護者さんたちもきっと不安な思いをもたれていたのではないかと思います。それでも、安心して預けられる場所・子どもが楽しく過ごせる場所として温かい目で見ていただいていた。当時は放課後を過ごす場所は同じ法人内の「ふう」以外は、袋井市内にまだ放課後等デイサービスはなく放課後児童クラブ(そよかぜ・つばめの家・はるかぜ)だけでした。

しかし、平成26年以降の4年間で袋井市内に放課後等デイサービスは9カ所出来ました。さらに、昨年からは各事業所で特色を強く打ち出すようになり、学習や水泳、就労対応型を取り入れる事業所も出てきています。

子どもにとって放課後とは？学校とも家庭とも違う第3の居場所だと思います。

その役割が、本人が安心して楽しく過ごせる場所から、家族の就労支援・本人の職業支援へも発展し始めています。便利な放課後等デイサービスが選べる状態である中、家族の迎えを必要とし、毎日の利用は難しい放課後児童クラブを選ぶお母さんは減っているのが現状です。放課後等デイサービスも生き残りをかけて特色を出して来ています。内容をしっかり考えて準備している事業所が多くなっています。個別支援計画も作成され支援の充実が図られています。

放課後等デイサービス利用の流れは勢いを増していく傾向の中、はるかぜの1対1の支援は重要ですが、年齢やその子の状態に応じて形を変化させていくこと・個々にあった選べる活動の提供を検討し、今までのやり方を見直す時期になってきていると思います。

ほぼ毎日どこかを利用する子どもたちが増えている中で、落ち着ける日常を提供することの意味を深く考えながら、個々の子どもの今の状態を把握して、内容の充実を図ることに取り組むことを始めていきたいと思っています。しかし、それは同時にスタッフの働き方も変えていくことになり検討を要する問題でもあります。

時流に流されず、子どもたちの健やかな成長の一端を担えるよう、皆さんからご意見をいただき、参考にさせていただきながら進んでいきたいと思っています。

よろしく願いいたします。

(文責：鈴木 直子)